

2020年度 一般選抜(前期日程) 国語 出題のねらいと解答例

出典

郡司ペギオ幸夫『天然知能』 講談社

出題のねらい

本問題は、語句の意味・用法などを理解したうえで使いこなす能力、文章の構成や特徴ある表現を捉える分析力、論理の展開や要点を的確に読みとる理解力、内容全体を総合的にまとめる論理力、論理的な構成を工夫して文章にまとめる構成力を測っている。昨年度までと同様、今年度の問題では長文を読み、それに基づいて語彙や文法などにかかわる基礎知識を問うとともに長文記述の問題を出題した。

解答例

問題Ⅰ (配点20点)

問一

(ア) しょせん (イ) ぜんぷく (ウ) はたん (エ) さいな (オ) おぼつか

問二

(い) 毒瓶 (ろ) 水槽 (は) 謎 (に) 鍛 (ほ) 躍起
(へ) 依拠 (と) 愚直 (ち) 縮 (り) 援用 (ぬ) 飽

問三

(i) 消耗 (ii) 奇抜 (iii) 危惧 (iv) 曖昧 (v) 専有

問題Ⅱ (配点55点)

問一

あ 4 い 3 う 5 え 1 お 2

問二

4

問三

1

問四

3

問五

2

問六

5

問七

5

問八

自然知能や人工知能とは違い、天然知能は自分にとっての外部を受け容れ、他者の評価と関わらずに創造を楽しむことのできる知性である。そこで、天然知能は周囲を気にすることなく、自分だけにおいて、自分自身として生きることが自然に認められているということ。(120字)

問九

異なる空間のおおよその配置は判断しても、自分の判断の外部を呼び寄せて「ほかに何かあるんじゃないか」と考え、位置関係を糊付けして固定はしない。いちいち可能性をあげつらうのではなく、自由に調整できる可動領域を維持して、関係の遊びを設定すること。(120字)

問題Ⅲ (配点25点)

評価方法

語句の適切な使用、文章の明快さ、問題文に提示された概念の理解、記述内容の論理性などを総合して評価する。

以上